

南多摩地域リハビリテーション支援センター平成 23 年度事業報告

事務局

永生病院地域リハビリ支援事業推進室

【業務状況】

近年は依頼事業、共催事業が更に増加し、協力施設の他に直接事業への協力を頂ける施設も増加した。平成 22 年度の事業参加者総数は 2,939 名、平成 23 年度は 2 月 22 日現在、既に 3,000 名を超えている。

- 今年で 10 年目を迎える東京都地域リハ支援事業は本年度より『必須の役割』と『選択する役割』の二つの機能に分けられ、更に前者では①地域リハ力の向上（症例検討会、かかりつけ医へのリハ支援）、②介護リハの支援（医療と介護の交流の場、リハビリ研修、ケアプラン支援）、③地域リハビリ関係者の連携強化（連絡会、協議会の設置）が示され、後者では①在宅リハ支援事業、②脳卒中医療連携推進事業への支援、③高次脳機能障害のリハ事業への支援、④地域でニーズの高いテーマに関する研修支援が明示された。当圏域のこれまでの活動ではほぼ全ての機能を実施している。
- 本事業の連絡会及び企画会議として開催している「南多摩リハビリストッフ合同会議」は本年度より、地域リハビリの理念に則り、職域を超えたより多くの皆さんに集って頂くため、「南多摩 医療と介護と地域をつなぐ会」と名称を改めた。また『学術集会』を『フォーラム』と名称変更した。
- 地域のリハビリテーション従事者の研修・援助としては学術講演会（地域リハビリ講演会）2 回、学術集会 1 回の他、新人セラピスト教育研修は本年度、8 回開催し、参加者は合計 500 名を超えた。年度ごとに参加協力も増加し、本圏域の特徴的な事業として盛況に開催されている。
- 直接住民と接する相談機関の支援としては昨年同様、34 回の PT・OT 派遣を八王子市内へ行った。
- 地域の関係団体の支援としては専門職の支援として『八王子言語聴覚士ネットワーク』への講演会等を中心とした支援を 6 回、患者家族の会への支援として出張講演会を 1 回、八王子市高齢者支援課からの依頼の介護予防普及啓発事業として介護予防教室等を 12 回開催した。
- その他、

【特に力を入れたこと】

- 新人セラピスト教育研修
今年度の講義担当施設は 8 施設（北原国際病院、多摩丘陵病院、東海大学八王子病院、東京天使病院、永生病院、ふれあい町田ホスピタル、八王子市地域包括支援センター、動作介助研究会）となった。平成 21 年度から開始した新規事業であるが、参加者の合計は平成 21 年度 名、平成 22 年度 435 名、そして平成 23 年度は 570 名と毎年増加している。今年度より開催施設に合わせ定員を設けた。
- 八王子市介護予防普及啓発事業
今年度より八王子市高齢者支援課からの要請に応え、市内 5 地域包括支援センター、計 9 回の介護予防教室を開催した。内容は介護予防、転倒予防、尿失禁予防、飲込みの障害予防の 4 項目の中から、地域包括支援センターの選択制とした。
- ホームページのリニューアル

【今後の課題】

- ホームページの更なる充実
新人研修等、業務にて参加できなかった方のために講師の承諾を得て、研修資料の公開を検討中。
- 行政機関との連携
『地域リハビリ』の理念は高齢者、障がい者が住み慣れた場所で、その人らしく、安心して暮らせる町づくりである。町づくりのためには行政機関との連携は不可欠であり、今後も積極的に交流を深め、地域への貢献を図っていく。